

# 事業評価シート

番号 1040055 - 001

## 【1.基本情報】

事業名	在宅当番医制運営事業				
担当部名	健康部	担当課名	保健医療課		
未来地図政策	安心につながる医療環境の充実		政策コード	2 - 2 - 0 - 0	
実施方法	委託(その他)	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成16年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市時間外診療業務実施要綱	

## 【2.事業概要】

事業の目的	休日及び夜間における一次救急医療体制の確保を目的とする。	
事業の内容	岐阜市医師会に委託し、市内医療機関において、内科及び外科系の休日及び夜間における一次救急医療体制を整備している。	
事業の対象	何を	内科及び外科系の一次救急医療
	誰に (対象者・対象者数)	受診者
	どのくらい (具体的 数値で)	内科・外科: 平日(年間290日)及び休日(年間76日) 18:00～翌8:00 眼科: 休日(年間76日)10:00～18:00 耳鼻咽喉科: 休日(年間70日)10:00～18:00 産婦人科: 休日(年間76日)10:00～18:00 泌尿器科: 休日(年間42日)10:00～18:00 皮膚科: 休日(年間12日)9:00～12:00
令和元年度 (実施内容)	25,412,060円(委託料 24,465,400円、保険料 946,660円)	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,853	90	2,853	90	3,060	90
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>2,736</b>	<b>90</b>	<b>2,736</b>	<b>90</b>	<b>3,060</b>	<b>90</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託料	33,136	28,614	24,466
	医師保険料	1,014	980	947
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>34,150</b>	<b>29,594</b>	<b>25,413</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	36,886	32,330	28,473

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

**【5.収支】**

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	36,886	32,330	28,473

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	400,000	400,000	400,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	92	81	71

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	一次医療体制を確保した日数	単位	日
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	365	365	366
実績値	365	365	366

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	在宅当番医制の受診者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	1,359	1,119	1,017

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	内科、外科系の一次救急患者の受入先を確保することができ、市民ニーズは高いといえる。  岐阜県保健医療計画に基づき、市が実施する必要がある。また、地方交付税対象事業である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	年間71円の負担で、休日及び夜間における内科・外科系の一次医療体制を確保できており、費用対効果は高いといえる。  救急病院案内では当番病院(診療所)を案内しているが公表していないので、広く知られていない可能性がある。周知方法等については委託先と協議が必要になる。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	年間を通じて各診療科において受診できる救急医療体制を整備されていることは、市民に安心を寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受診した病院(診療所)に対して医療費はかかるが、制度の利用は無料であり、また、受益者はすべての市民であるため、公平性は高いといえる。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	一次医療(比較的軽症)の提供体制は市町村単位で確立するものと岐阜県保健医療計画に定めている。 休日及び夜間の一次救急医療体制の確保は市民の安全安心の拠り所となるため事業継続の必要がある。

# 事業評価シート

番号 1040055 - 002

## 【1.基本情報】

事業名	病院群輪番制運営事業				
担当部名	健康部	担当課名	保健医療課		
未来地図政策	安心につながる医療環境の充実		政策コード	2 - 2 - 0 - 0	
実施方法	委託(その他)	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成16年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	年間を通じて、休日及び夜間の二次救急医療体制を確保する事を目的とする。				
事業の内容	休日及び夜間において、休日急病センター及び小児夜間急病センターの後方支援のほか、一次医療機関で治療が難しい重篤な患者を転送して診療を受けられるよう、市内7病院(岐阜市民病院、岐阜県総合医療センター、国立病院機構長良医療センター、岐阜赤十字病院、朝日大学病院、岐阜清流病院、河村病院)へ委託し、内科・外科系及び小児科の二次救急医療体制を整備している。				
事業の対象	何を	二次救急医療			
	誰に (対象者・対象者数)	受診者(年間総数 約20,000人～26,000人)			
	どのくらい (具体的数値で)	366日 平日(290日):午後6時～翌午前8時 休日(76日):午前8時～翌午前8時			
令和元年度 (実施内容)	19,979,200円[(@22,400円×220回+@22,800円×222回)×2(「内科・外科系」、「小児科」)(全日夜間)+(日・祝日・12/29～1/3の昼間)=(366)+(76)=442回 R元年度 4月～9月:220回、10月～3月:222回				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,853	90	2,853	90	3,060	90
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	2,736	90	2,736	90	3,060	90

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	委託料	19,577	19,622	19,980
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		19,577	19,622	19,980

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	22,313	22,358	23,040

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他	4,469	4,479	4,561
計(F)	4,469	4,479	4,561

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	17,844	17,879	18,479

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	400,000	400,000	400,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	45	45	46

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	二次救急体制を確保した日数	単位	日
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	365	365	366
実績値	365	365	366

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	輪番制の受診者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	20,945	21,394	20,682

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	休日及び夜間の二次救急患者の受入先確保のために必要とされており、市民ニーズは高いといえる。  岐阜県保健医療計画に基づき、市が実施する必要がある。また、地方交付税対象事業である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	年間46円の負担で、内科・外科系及び小児科の二次救急医療体制を確保できていることを鑑みると費用対効果は高いと考えられる。  救急搬送や小児夜間急病センター及び休日急病センターの二次転送に役立っている。 近隣市町を含めた広域で活用している。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	一次医療機関で治療が困難な重篤な患者の受入れ先として内科・外科系7病院と小児科3病院での二次救急医療体制を整備していることは、迅速な救急搬送に寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受診した病院に対して医療費はかかるが、制度の利用は無料であり、また、受益者はすべての市民であるため、公平性は高いといえる。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	二次医療圏である岐阜圏域には病院が多数あるが、中心的役割を岐阜市が担うことで、二次救急医療体制を整備していく必要がある。また、近隣市町と協定を締結しており、事業継続が求められる。

# 事業評価シート

番号 1040055 - 003

## 【1.基本情報】

事業名	休日急病センター事業				
担当部名	健康部	担当課名	保健医療課		
未来地図政策	安心につながる医療環境の充実		政策コード	2 - 2 - 0 - 0	
実施方法	委託(その他)	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成24年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市休日急病センター及び岐阜市休日急病歯科センター 業務実施要綱	

## 【2.事業概要】

事業の目的	市民が休日にも安心して医療を受けられるように、岐阜地域の休日の一次救急医療体制を確立することを目的とする。				
事業の内容	岐阜市医師会、岐阜市歯科医師会、岐阜市薬剤師会等の協力のもと、市民病院に事業を委託し運営している。				
事業の対象	何を	休日における医療			
	誰に (対象者・対象者数)	小児科・内科・歯科患者			
	どのくらい (具体的数値で)	小児科・内科：日曜・祝日・12/31～1/3の9時～13時、14時～18時、19時～23時 歯科：日曜・祝日・12/31～1/3の9時～13時、14時～18時			
令和元年度 (実施内容)	77,758,283円 市民病院委託費 73,731,838円 歯科特殊診療業務委託 3,390,400円 その他 636,045円				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,853	90	2,853	90	3,060	90
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>2,853</b>	<b>90</b>	<b>2,853</b>	<b>90</b>	<b>3,060</b>	<b>90</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		76,313	78,205	77,759
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	市民病院委託料	72,468	74,528	73,732
	歯科特殊委託料	3,136	3,225	3,391
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>76,313</b>	<b>78,205</b>	<b>77,759</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	79,166	81,058	80,819

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料	61,474	66,024	57,210
その他			194
<b>計(F)</b>	<b>61,474</b>	<b>66,024</b>	<b>57,404</b>

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	17,692	15,034	23,415

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	400,000	400,000	400,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	44	38	59

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	医療体制を確保した日数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	70	72	75
実績値	70	72	75

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	休日急病センターの受診者		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	4,136	4,159	3,817

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	岐阜地域の休日に開業する医療機関が少ない中、一次救急医療体制が確保されることで市民が安心して受診することができ、市民ニーズが高いといえる。  岐阜県保健医療計画に基づき、市が実施する必要がある。また、地方交付税対象事業である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	年間58円の負担で休日の急病患者へ診療の場を提供できていることを鑑みると、費用対効果は高いと考える。  -
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	市内の診療所の休診日である日曜日及び祝・休日に一次救急医療体制を整備していることは、市民の安心に寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受診患者は、診療報酬に基づく費用を負担しており、適正である。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む。)・廃止)	現状維持	一次医療(比較的軽症)の提供体制は市町村単位で確立するものと岐阜県保健医療計画に定めている。また、上記医療体制の利用について、近隣市町と協定を締結しており、休日の一次救急医療体制の確保は、市民の安全・安心の拠り所となるため事業継続は必要である。

# 事業評価シート

番号 1040055 - 004

## 【1.基本情報】

事業名	小児深夜帯一次救急事業				
担当部名	健康部	担当課名	保健医療課		
未来地図政策	安心につながる医療環境の充実		政策コード	2 - 2 - 0 - 0	
実施方法	委託(その他)	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成28年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	深夜帯(23時～翌8時)において、小児一次救急医療体制を確保することを目的とする。	
事業の内容	市民病院への委託により、深夜帯(23時から翌8時)における小児科の一次救急医療を実施している。	
事業の対象	何を	小児科の一次救急医療
	誰に (対象者・対象者数)	15歳以下の小児患者
	どのくらい (具体的 数値で)	23時から翌8時まで
令和元年度 (実施内容)	市民病院委託料8,271,600円	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,853	90	2,853	90	3,060	90
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>2,853</b>	<b>90</b>	<b>2,853</b>	<b>90</b>	<b>3,060</b>	<b>90</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		8,176	8,176	8,272
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	市民病院委託料	8,176	8,176	8,272
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>8,176</b>	<b>8,176</b>	<b>8,272</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	11,029	11,029	11,332

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他		2,466	2,468
<b>計(F)</b>	<b>0</b>	<b>2,466</b>	<b>2,468</b>

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	11,029	8,563	8,864

**【6.コストバランス】**

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	400,000	400,000	400,000
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	27	21	22

**【7.指標】**

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	医療体制を確保した日数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	365	365	366
実績値	365	365	366

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	小児深夜帯一次救急受診者数		単位
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	1,239	1,240	1,147

**【8.評価】**

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	深夜帯に開業する小児科医が少ない中、小児一次救急医療体制が確保されており、市民が安心して受診することができ、市民ニーズが高いといえる。  岐阜県保健医療計画に基づき、市が実施する。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	年間22円の負担で深夜帯小児一次救急医療体制ができていることを鑑みると、費用対効果は高いと考える。  -
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	市内の医療機関が休診している深夜帯(23時～翌8時)の小児一次救急医療体制を整備されていることは、市民の安心に寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受診患者は、診療報酬に基づく費用を負担しており、適正である。
<b>【総合評価】</b> (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	一次医療(比較的軽症)の提供体制は市町村単位で確立するものと岐阜県保健医療計画に定めている。また、夜間帯の小児一次救急医療体制の利用について、近隣市町と協定を締結している。深夜帯の小児一次救急医療体制の確保は、市民の安全安心の拠り所となるため事業継続の必要がある。



# 事業評価シート

番号 1040055 - 005

## 【1.基本情報】

事業名	小児救急一次医療センター事業				
担当部名	健康部	担当課名	保健医療課		
未来地図政策	安心につながる医療環境の充実		政策コード	2 - 2 - 0 - 0	
実施方法	委託(その他)	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成14年度～	年度	根拠法令 関連計画※		

## 【2.事業概要】

事業の目的	平日準夜帯(19時30分～23時)において、小児急病患者への診療体制を確保することを目的とする。	
事業の内容	小児夜間急病センターにおいて、市民病院への委託により、平日夜間(19時30分から23時)における小児科の一次救急医療を実施している。	
事業の対象	何を	小児科の一次救急医療
	誰に (対象者・対象者数)	15歳以下の小児患者
	どのくらい (具体的 数値で)	平日の19時30分から23時まで
令和元年度 (実施内容)	42,981,672円 市民病院委託料 42,961,425円 その他需用費等 20,247円	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,853	90	2,853	90	3,060	90
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
計(A)	2,853	90	2,853	90	3,060	90

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		43,563	42,853	42,982
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	市民病院委託料	43,558	42,835	42,962
	消耗品費	2	15	17
	印刷製本費	3	3	3
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
計(D)=B+C		43,563	42,853	42,982

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	46,416	45,706	46,042

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料	19,126	16,090	15,817
その他	5,238	6,841	7,582
計(F)	24,364	22,931	23,399

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	22,052	22,775	22,643

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	400,000	400,000	400,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	55	57	57

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	医療体制を確保した日数	単位	日
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	295	293	291
実績値	295	293	291

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	小児夜間急病センターの受診者数	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	-	-	-
実績値	1,198	986	950

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	平日夜間帯に開業する小児科医が少ない中、小児一次救急医療体制を確保されており、市民が安心して受診することができ、市民ニーズが高いといえる。  岐阜県保健医療計画に基づき、市が実施する必要がある。また、地方交付税対象事業である。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	年間56円の負担で平日夜間における小児急病者の診療の場を提供できていることを鑑みると、費用対効果は高いと考えられる。  -
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	診療所の休診後の準夜帯(19時30分から23時)に小児一次救急医療体制を整備されていることは、市民の安心に寄与している。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	受診患者は、診療報酬に基づく費用を負担しており、適正である。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	一次医療(比較的軽症)の提供体制は市町村単位で確立するものと岐阜県保健医療計画に定めている。また、夜間帯の小児一次救急医療体制の利用について、近隣市町と協定を締結している。平日準夜帯の小児一次救急医療体制の確保は、市民の安全・安心の拠り所となるため事業継続は必要である。

# 事業評価シート

番号 | 1040055 | 006

## 【1.基本情報】

事業名	非医療従事者の初期救急活動環境整備事業(AED貸出し事業)				
担当部名	健康部	担当課名	保健医療課		
未来地図政策	安心につながる医療環境の充実		政策コード	2 - 2 - 0 - 0	
実施方法	直営	補助の種類※	実施主体	岐阜市	
実施期間	平成21年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市自動体外式除細動器(AED)貸出要綱	

## 【2.事業概要】

事業の目的	AEDをイベント等の際に貸出し、非医療従事者である市民が心停止状態にある患者の救命行為を積極的に行える環境を整備することにより、心停止状態の患者の救命救急に資することを目的とする。				
事業の内容	保健所に2台、南・北市民健康センターに各1台の貸出し用AEDを配備し、イベント等での活用を希望する市民に対し貸出しを行う。				
事業の対象	何を	AED			
	誰に (対象者・対象者数)	市民			
	どのくらい (具体的 数値で)	4台			
令和元年度 (実施内容)	75,900円 耐用年数4年のバッテリーの購入(37,950円×2個)				

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	2,219	70	2,219	70	2,380	70
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>2,219</b>	<b>70</b>	<b>2,219</b>	<b>70</b>	<b>2,380</b>	<b>70</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		30	104	76
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	AED専用パッドの購入	30	29	0
	バッテリー購入	0	75	76
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>30</b>	<b>104</b>	<b>76</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	2,249	2,323	2,456

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 【5.収支】

市負担額一般財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	2,249	2,323	2,456

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	岐阜市民	岐阜市民	岐阜市民
受益者数	400,000	400,000	400,000
受益者負担額(千円)	0	0	0
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)	5	6	6

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	実際に貸出しを行った数	単位	貸出し回数
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	—	—	—
実績値	20	31	39

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	AEDの貸出しを行ったイベントでの事故発生件数	単位	発生件数
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	0	0	0
実績値	0	0	0

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	中	AEDが整備されることで、市民が安心してイベントに参加することができ、市民ニーズは高いといえる。 民間でもAEDの購入は可能であり、イベントの種類によっては、AEDはすでに用意されている場合も多い。しかし、地域の集まりなど、AEDを用意することが困難である場合においては、市としてフォローする必要がある。
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	中	年間約6円の負担で、イベントなどでの安心が生まれる。心停止となってから電気ショックが1分遅れるごとに救命率は10%ずつ低下すると言われて(参考:日本AED財団ホームページ)。したがって、命の危険が生じたときに、その命を守る可能性があることを鑑みると、費用対効果は高いと考えられる。 イベントは人が多く集まる場所で実施される可能性が高いので、すでにイベントの実施場所の近くにAEDが設置されている可能性もある。その場合は、AEDマップを周知することで、人々に安心を提供できる可能性がある。
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	中	貸出しを行ったイベントにて、過去3年間の事故件数は0件であるため、効果を図ることが難しい。
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	高	希望があれば誰でもAEDを借りることができ、その受益者はすべての人であるため、公平性は高いといえる。
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	一定の貸出希望者がおり、万が一の救命活動に必要なことから事業継続の必要がある。 今年度は、広報ぎふやホームページへの掲載に加え、新たにラジオ広報、スポーツ少年団への案内を行い、周知を図っている。 AED貸出し事業について広く市民に周知するため、今後も引き続き広報活動を行う。

# 事業評価シート

番号 1040055 - 007

## 【1.基本情報】

事業名	岐阜市献血推進協議会補助金				
担当部名	健康部	担当課名	保健医療課		
未来地図政策	安心につながる医療環境の充実		政策コード	2 - 2 - 0 - 0	
実施方法	補助	補助の種類※	団体事業補助金	実施主体	岐阜市献血推進協議会
実施期間	8 年度～	年度	根拠法令 関連計画※	岐阜市保健医療関係団体運営補助金交付要綱 安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律	

## 【2.事業概要】

事業の目的	岐阜市献血推進協議会の運営費を補助することにより、当該協議会の活動を通じ、献血思想の普及啓発を図り、市民多数の献血を奨励する。	
事業の内容	献血思想の普及啓発活動、献血場所となる事業所へ協力依頼等の献血推進事業を実施している岐阜市献血推進協議会に対し運営費を補助する。	
事業の対象	何を	岐阜市献血推進協議会補助金
	誰に (対象者・対象者数)	岐阜市献血推進協議会
	どのくらい (具体的 数値で)	補助(負担)率 100%、補助(負担)額 180千円、補助(負担)対象経費 協議会運営費用
令和元年度 (実施内容)	岐阜市献血推進協議会開催、「愛の血液助け合い運動」街頭キャンペーン等献血思想の普及啓発活動、献血場所となる事業所へ協力依頼等を実施	

## 【3.支出(行政コスト)】

### (1)人にかかるコスト

	平成29年度決算額		平成30年度決算額		令和元年度決算額	
	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)	人件費(千円)	人日(人)
正規職員	888	28	888	28	952	28
嘱託職員	0		0		0	
アルバイト	0		0		0	
<b>計(A)</b>	<b>888</b>	<b>28</b>	<b>888</b>	<b>28</b>	<b>952</b>	<b>28</b>

### (2)物にかかるコスト

直接経費【直接事業費】(B)		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
		179	180	180
直接事業費の主な内訳		平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
項目	補助金	179	180	180
減価償却費【施設管理】※(C)		平成29年度額(千円)	平成30年度額(千円)	令和元年度額(千円)
<b>計(D)=B+C</b>		<b>179</b>	<b>180</b>	<b>180</b>

### (3)総コスト

総事業費(E) =A+D	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	1,067	1,068	1,132

## 【4.収入】

収入内訳	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
国庫支出金			
県支出金			
市債			
使用料・手数料			
その他			
<b>計(F)</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

## 【5.収支】

市負担額一般 財源(E-F)	平成29年度決算額(千円)	平成30年度決算額(千円)	令和元年度決算額(千円)
	1,067	1,068	1,132

【6.コストバランス】

	平成29年度	平成30年度	令和元年度
事業受益者	医療機関、患者	医療機関、患者	医療機関、患者
受益者数			
受益者負担額(千円)			
受益者負担率(%)	0.0%	0.0%	0.0%
受益者1人当たりのコスト (円、一般財源ベース)			

【7.指標】

アウトプット評価 (資源投入(インプット)により産出した活動(サービス))			
活動指標名	移動採血車による献血場所の確保	単位	箇所
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	209	209	209
実績値	243	244	265

アウトカム評価 (アウトプットによりもたらされた成果)			
成果指標名	献血者数(移動採血車のみ)	単位	人
	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目標値	6,460	6,199	5,827
実績値	7,173	6,919	7,391

【8.評価】

評価項目	評価	理由(可能な限り定量的又は定性的な指標を用いて説明)
必要性 (①目的が市民・社会のニーズに合っているか) (②事業を市が担う必要があるか(民間・国・県)) ※【1】【2】から	高	<p>少子高齢社会において、将来の献血を支える10代から30代の若い世代への理解を深め、協力を求める活動に力を注いでいる。</p> <p>安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律第5条における市の責務として実施。岐阜市献血推進協議会は、理事15名人中9名が民間からの委員構成である。(岐阜市赤十字奉仕団、ぎふ農業協同組合など)</p>
効率性 (①費用対効果) (②他に効率的な方法がないか (広域・民間活用・市民協働)) ※【1】【3】【4】【5】【6】から	高	<p>総事業費のみで協議会が運営できており、目標献血者数を毎年達成できているため、効果あり。</p> <p>安全な血液製剤の安定供給の確保等に関する法律第5条における市の責務として実施。岐阜市献血推進協議会は、理事15名人中9名が民間からの委員構成である。(岐阜市赤十字奉仕団、ぎふ農業協同組合など)</p>
有効性 (期待した効果が得られたか 又は計画した将来に効果が得られる見込か) ※【2】【7】から	高	<p>移動採血車の手配、「愛の血液助け合い運動」、高校への訪問、成人式での情報提供、等の若年層に対する啓発活動を通して、目標献血者数を毎年達成できているため、効果あり。</p>
公平性 (受益者及び受益者負担は適正か) ※【2】【6】【7】から	中	<p>岐阜市医師会の協力により、H29年度30カ所、H30年度32カ所、H31年度34カ所、の病院・診療所等で献血を実施している。民間からの岐阜市献血推進協議会委員にも啓発活動に参加協力してもらっている。</p>
【総合評価】 (現状維持・改善(統合・縮小含む)・廃止)	現状維持	<p>献血の普及啓発等により、血液製剤の安定供給に貢献することで、安心できる医療環境づくりに一定の成果がある</p>